



がもうひがたしぜんさいせいきょうぎかい 蒲生干潟自然再生協議会

再生 目標

渡り鳥にとって良好な湿地環境の保全と、空間の適正利用による環境保全活動・環境教育を行う場および多様な主体が交流し、情報を共有する場の創出



蒲生干潟は、仙台港の建設や河川改修工事によって人為的に形成されたもので、淡水と海水が混じる汽水域となっています。また、国際的にも貴重な渡り鳥の中継地、繁殖地、越冬地であり、特にコクガン越冬地の南限として重要な役割を果たしています。

しかし、平成23年3月の東日本大震災による津波の影響を受け、蒲生干潟の湿地環境は激変しました。このため、渡り鳥にとって良好な自然環境への修復等に向け、どのような取組ができるのか、自然遷移の経過を見ながら、検討を進めることとしています。

自然再生の手法

- 多様な生物を育む干潟の保全・復元
- 湿地を維持する水環境の再生
- 砂浜環境の保全・回復
- 環境保全活動・環境教育の推進および各主体が交流する場の創出

- 事務局
宮城県自然保護課ほか
- 対象地域
宮城県仙台市
(国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区)
- 構成員数：22人
- 協議会：H17. 6. 19 設立
- 全体構想：H18. 9. 16 策定
- 実施計画：H20. 3. 29 策定
(震災後、協議会は休止中)

(H31. 3現在)



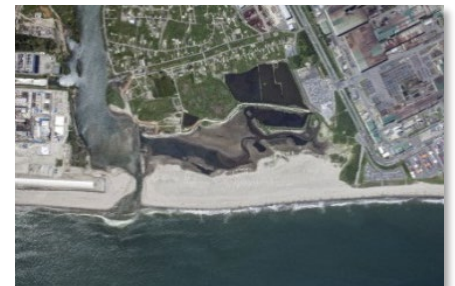
コクガン



平成21年3月



平成23年3月12日 国土地理院提供



平成25年8月26日